



フィリピン建築都市ワークショップ 2008

「ヴァナキュラーからの変換」参加者募集

企画・監修：(有)連健夫建築研究室 旅行企画・実施：日本通運(株) 首都圏旅行支店 協力：AA アジア

■ 趣旨：近代化の中で、特長ある地域文化は消えてしまい、どこにいても同じような姿・状況が見られます。今、ヴァナキュラー（地域性・土着性）を見直す中で、現代を考えることにより、次の文化を創造することができるのではないのでしょうか。すなわち「ヴァナキュラーからの変換」です。今回、多様な文化が息づく熱帯の島国フィリピンを舞台に、見学、個人指導、レクチャーや講評、交流パーティなど多彩なプログラムを含むワークショップを企画しました。この経験は建築のみならず様々な分野で活かすことができるでしょう。是非、意欲ある社会人、学生に参加していただければと思います。

■ 期間：2008年3月10日(月)から3月19日(水)(10日間)

■ 参加費用：23万8000円※

■ 予定訪問都市：マニラ、バナウエイ、ポントック、バギオ

■ 募集人員：20名(最小催行人員：10名)→締切：2008年2月10日、但し募集人員に達しました際はその時点で締切致します

1、フィリピンの北部、ルソン島において、ヴァナキュラーが息づくポントック、世界文化遺産コルディリラの棚田郡があるバナウエイ、最も人気の高い避暑地バギオ、アジアの雑踏と近代化が混沌とする首都マニラを訪れ、現地の建築家や専門家の協力を得てワークショップを行います。

2、地域文化と建築や都市との関わりを視点を体得し、調査・分析・提案の手法を学び、作品をつくることができます。

3、学生、社会人、フレッシュマン、ベテランを問わず、どなたでも参加できます。

4、帰国後、作品集としてまとめ、東京にて展示会・シンポジウムを予定しています。

※ 参加費用に含むもの(往復航空料金、バス代、2人1室ホテル代、全朝食及び2,4,5,7日の夕食、講演・個人指導・交流会参加費)空港税は含まず

■ 随行者

【ブレグンス・ジャン】：(ルーテル学院大学教授・新潟大学大学院講師、米国人) 語学、異文化コミュニケーション専門。父親がフィリピン・ルーテル神学校の校長であったことから、マニラとバギオにて小、中学校時代を過ごす。米国インディアナ州バルパレイソ大学卒。ミネソタ州立ミネソタ大学大学院修了、長年の日本生活から日本文化を深く理解し、日本語は日本人よりも堪能。著書「ジャンさんの『英語の頭』をつくる本」(インターメディカル)、全国語学教育会(JALT)会員、三鷹市国際化円卓会議議長。

【連健夫】：建築家(連健夫建築研究室代表)、多摩美術大学建築科卒業、東京都立大学大学院修了、ゼネコン勤務の後、AAスクール大学院留学、同校助手、東ロンドン大学非常勤講師を経て帰国、事務所設立、著書「心と対話する建築・家」「イギリス色の街」(技報堂出版)、白鷗大学はくおう幼稚園おもちゃライブラリーで栃木県建築景観賞、こども環境学会デザイン奨励賞、芦原義信奨励賞受賞、ルーテル学院大学新校舎は2006年度日本建築家協会優秀建築選200。提案論文「信頼される建築とは何か」で最優秀賞受賞。

【田口知子】：建築家(田口知子建築設計事務所代表)1990年東京大学卒業の後、長谷川逸子・建築計画工房に勤務、1999年K&Tアーキテツツ設立、2000年に田口知子建築設計事務所に改名、現在に至る。設計の傍ら前橋工科大学、日本大学で非常勤講師を務める。作品に武蔵小山アパートメント、うつのみやアパートメント、三角地の家、セラタウンかさほらアミニティーホール(東京大学フィンドレイ研究室共同)。2002年第3回「TILE DESIGN CONTEST」1等、2005年藤森照信×伊東豊雄両氏が選ぶ住宅セレクション優秀賞受賞



■ 連絡・申込先：(有)連健夫建築研究室

<http://www.muraji.jp> takeo@muraji.jp
TEL:03-5549-9887 FAX:03-5549-9889

■ 旅行企画・実施：日通運株式会社 首都圏旅行支店(加藤)
東京都港区東新橋 1-9-3 日通本社ビル 18階

<http://www.15.nittsu.co.jp/travel/> svuf.kantou@nittsu.co.jp
TEL:03-6251-6351 FAX:03-6251-6361